令和４年度　学校経営方針

基本理念（めざす学校の姿）

「児童生徒一人一人がともに生きる教育の創造」

子どもたちが主人公となった学校をつくるために
「愛があふれ、夢が広がる、ひまわりの子の釧路養護学校」をめざします。

学校教育目標（めざす児童生徒の姿）

「今を　明日を　自分らしく　心豊かに　生きる人を育てる」

○　よさや持ち味を発揮する児童生徒　「明るさ、穏やかさ、伸びやかさ」「自己実現」
○　豊かにかかわり合う児童生徒　「伝わるよろこび、かかわり合えるよろこび」
○　自分から進んで取り組む児童生徒　「健康な心と体」「学ぶ楽しさ、働くよろこび」

学校経営の基本方針

○　児童生徒にとって　「授業が楽しく、確かな学力が身につく学校」をつくります。
○　保護者にとって　「確かな成長が伝わり、信頼や協力ができる学校」をつくります。
○　地域にとって　「教育活動がよく分かり、地域に開かれた学校」をつくります。
○　職員にとって　「専門性を高め、働きがいのある学校」をつくります。

☆学校で学ぶ児童生徒の命と安全、人権を守り、全教職員が体罰根絶を誓います。
☆児童生徒一人一人をかけがえのない成長発達する存在として愛し、尊び、信頼します。
☆児童生徒の教育的ニーズを的確に把握し、「認める、ほめる、励ます、伸ばす」ことを念頭に置いて、それぞれの特性に応じた教育活動を推進します。

教　育　方　針

□　児童生徒の命や人権、安心・安全が最大限に守られる教育を行います。
□　保護者や関係機関・地域と連携した「個別の教育支援計画」をもとに、児童生徒一人一人の実態を的確に把握し、発達課題に即した「個別の指導計画」の充実に努め、主体的に活動に取り組む力を育てます。
□　学習指導要領に基づいて、児童生徒一人一人が「わかる」「できる」「やりたい」授業を受けられるよう、指導の充実に努めます。
□　個別最適化による学びと協動的な学びによる効果的な教育活動の推進に努め、情報機器活用能力の育成と多様な学習形態の設定に努めます。
□　集団生活を通して、共生社会に向かう社会生活に必要な基礎的、基本的な力や他人を思いやるなどの豊かな心情や、健康な生活を営む力の育成に努めます。
□　今の生活、将来の生活を見据え、キャリア発達の視点から、小・中・高・寄宿舎の一貫性や連続性を図り、自立し、豊かな生活を営むための働く喜びや働く力を育てる教育に努めます。
□　社会性や豊かな心情を育成するため、地域との双方向の働きかけを重視した学習活動や人権教育、道徳教育、主権者教育の充実に努めます。
□　社会生活に必要な基礎的な生活する力や豊かな人間関係を育てる　ために、潤いのある寄宿舎教育の充実に努めます。

経　営　方　針

□　健康で安全な教育活動の　ための危機管理体制の充実や、学習環境の整備及び食の安全の確保に努めます。
□　教職員一人一人が、本校職員としての誇りを持ち、それぞれの　特性を発揮し、相互理解と協働による業務推進にあたります。
□　各学部間、学年間の機能的で日常的な連携を密にし、支援体制の充実や教育課程の連続性を図ります。
□　児童生徒一人一人の生活に生きる力が身につく授業の充実を目指し、教職員の専門的力量や授業力の向上を図るための研修の充実に努めます。
□　児童生徒の学習環境充実と多様な学びのため、ICT 機器の活用と学習保障の機会の設定に努めます。
□　学校課題に即応するための校務の整理と体制づくりを図ります。
□　校内の相談・支援体制を整備するとともに、保護者や地域社会、関係機関等と連携して、地域における特別支援教育のセンター的役割を果たすなど「信頼・期待される学校」「社会に開かれた学校」づくりを進めます。
□　教育活動・経営活動推進のため、学校予算の効率的な執行に努　めます。
□　釧路鶴野支援学校聴覚障害教育部門児童生徒が寄宿舎に入舎していることから、教務・寄宿舎・事務各部門の校内連携はもとより、同校との緊密な連絡調整に努めます。

重点教育目標

「主体的・対話的で深い学びの視点を大切にした授業づくりの推進」
～個別最適な学びと協働的な学びによる教育活動の充実～